資料No.3

平成 23 年 12 月 14 日　第 2 回伊豆の国市地域公共交通会議　報告③

乗合バスの退出意向に関する地区説明会開催結果について

１　開催の目的

静岡県生活交通確保対策協議会に退出意向の申し出があった、伊豆箱根バス株式会社の乗合バス 6 系統について、運行地域住民に廃止の意向を説明し了承を得るため。

２　退出意向路線（系統）

（１）長岡駅～温泉駅・長塚～千代田団地
（２）長岡駅～反射炉～江川邸
（３）長岡駅～皆沢入口～反射炉
（４）韮山駅～江間～千代田団地
（５）韮山駅～韮山庁舎前～江川邸
（６）韮山駅～役場入口～江川邸

３　開催日時及び場所

（１）江間地区説明会
①　日　　時　平成 23 年 10 月 19 日（水）19：00～20：30
②　場　　所　江間地区防災センター2 階
③　対象地区　谷戸、仲之台、鳥打、珍野、町屋、大北、千代田、長塚
④　対象路線
＊　長岡駅～温泉駅・長塚～千代田団地
＊　韮山駅～江間～千代田団地

（２）韮山地区説明会
①　日　　時　平成 23 年 12 月 8 日（木）19：00～
②　場　　所　伊豆の国市役所韮山庁舎 3 階
③　対象地区　金谷、山木、四日町、南條、立花台、中、内中、土手和田
④　対象路線
＊　長岡駅～反射炉～江川邸
＊　長岡駅～皆沢入口～反射炉
＊　韮山駅～韮山庁舎前～江川邸
＊　韮山駅～役場入口～江川邸

４　結果

別紙のとおり
→12 月 8 日開催の韮山地区説明会の結果は、当日配布いたします。

資料No.3

平成 23 年 12 月 14 日　第 2 回伊豆の国市地域公共交通会議　報告③

会　議　結　果

1　会議等名	乗合バス及び実車実験バスに関する説明会（江間地区）
2　開催日時	平成 23 年 10 月 19 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分
3　開催場所	江間防災センター2 階
4　出席者	出席者 谷戸 3、仲之台 2、鳥打 6、珍野 1、町屋 5、大北 0、 千代田 30、長塚 2　計 49 名 説明者 伊豆箱根バス株式会社業務部　阿部次長 伊豆の国市政策企画課　菊地課長、植松、塩谷
5　結果	**■　乗合バスの運行廃止について** 伊豆箱根バス㈱が県協議会に単独継続困難を申し出ている乗合バス 6 系統のうち当該地域を運行する 2 系統について、経緯、現況、今後のスケジュール、市の対応等を資料に基づき説明。 **■　平成 23 年度実車実験バスの運行について** 本年度運行を予定している実車実験バスの概要を資料に基づき説明するとともに利用を促す。 **■　質疑応答** Q：朝の時間帯は、通勤・通学の利用が多いので残してほしい。 A：継続の可否については、実車実験バスと既存乗合バスを合わせた全体の利用実績で判断したい。 Q：乗合バスの利用がなく運行が困難なことは理解できるが、なぜ実験バスで増便するのか？無駄遣いではないか？ A：伊豆箱根バスの単独継続困難の申し出に対して、利用者が減少している状態のままで公的補助を行うことは、単に事業者の赤字を補てんするだけになってしまう。道路環境が変わったこと、運行経路や運行時間を変えて実験バスを運行することで利用者が増加する可能性もあるので、実験バスを運行したい。 また、定期的に運行しているバスを見て「今日はバスを使ってみよう」となり外出や行動の仕方が変わることもあり得る。 Q：コミュニティバスの運行は考えていないのか？ A：他地区からはコミュニティバスについて要望が出ている。

	市としても推進していきたい。江間地区でも要望があれば相談してほしい。「満足」な公共交通は難しいが「納得」してもらえるように取り組みたい。 Q：実験バスは利用が少なければ廃止とのこと。継続するかどうかわからないバスにお金をかけるなら、最初からコミュニティバスを運行すればよいのでは？ A：コミュニティバスも「あったらいい」という要望やアンケート結果だけで運行すべきではないと考える。乗合バスなのかコミュニティバスなのかを検討する際にも今回の実験バスの結果は有効だと思う。 お金がかかる・かからないでバスを運行するのではなく、利用がある・ないで判断したい。コミュニティバスだから安いという訳でもない。 Q：実験バスは運行してもらった方がよい。今回利用者が少なくて廃止になったとしても、将来バスの必要性が高くなった時には、今回のように再度実験し運行を検討するような筋道を作っておいてほしい。 **→　単独継続困難の申し出に対して公的補助は行わないこと、対象路線が廃止となることについては、強い反対意見はなかった。** **実車実験バスについては、運行結果によって継続しない可能性のあるバスを公費で運行することに対して「無駄ではないか」という意見がある一方、肯定的な意見もあった。** **なお、実験バスの運行結果と平成 24 年 3 月 31 日以降の運行予定については、再度地区説明会を開催する予定。**

資料No.3

平成 23 年 12 月 14 日　第 2 回伊豆の国市地域公共交通会議　報告③

会　議　結　果

1　会議等名	乗合バスの運行廃止に関する説明会（韮山地区）
2　開催日時	平成 23 年 12 月 8 日（木）19 時 00 分～19 時 50 分
3　開催場所	伊豆の国市役所韮山庁舎　3 階会議室
4　出席者	出席者 　金谷 2、山木 3、四日町 3、南條 0、立花台 2、中 2、内中 1、土手和田 2　　計 15 名 説明者 　伊豆箱根バス株式会社業務部　阿部次長 　伊豆の国市政策企画課　菊地課長、植松、塩谷
5　結果	**■　乗合バスの運行廃止について** 　伊豆箱根バス㈱が県協議会に単独継続困難を申し出ている乗合バス 6 系統のうち当該地域を運行する 4 系統について、経緯、現況、今後のスケジュール、市の対応等を資料に基づき説明。 **■　平成 23 年度実車実験バスの運行について** 　本年度運行を予定している実車実験バスの概要を資料に基づき説明。 ■　質疑応答 Ｑ：実車実験バスはどのくらいの利用者を見込んでいるか？ Ａ:既存の乗合バスと実験バスの利用者を合算して 1 日当たり 27 人以上の利用があれば実験期間終了後も継続して運行したい。現在までの利用実績について、既存乗合バスは未集計だが、実験バスは1日当たり平均8.9人の利用がある。 Ｑ:廃止予定路線を継続運行するために検討してきたとのことだが、具体的にはどのような案を検討したのか？例えば、反射炉と長岡地区の温泉駅を結ぶ等考えられるが？ Ａ：長岡地区の温泉駅と反射炉を結ぶ路線は 10 年程前に運行したが利用は少なかった。 反射炉に隣接して「蔵屋鳴沢」ができた際は長岡駅～反射炉間を増便したが利用者は増加しなかった。 反射炉、いちご狩り、三津シーパラダイス等への定期観光バスも運行したが利用者は少なかった。 Ｑ:バス事業者としては今後バス事業を廃止していく方針なのか？将来バスがなくなるのなら、地域や市は協力しながら

	考えていく必要があると思う。 A：事業者としては存続したい。今までは事業者が単独でバス運行について考えてきたが、今後は、事業者、行政、地域住民の三位で話し合いを行い、いかに存続していくのかご協力、ご理解をいただきながら考えていきたい。 Q：事業者だけでは採算のみを考えたバスになってしまう。地域には特性がある。なぜバスを利用しなくなったのか、そこから考えなければならないと思う。運行可否の結果だけを周知するのではなく、地域住民がどうしたらよいのかを考える場が必要だと思う。 **→　単独継続困難の申し出に対して公的補助は行わないこと、対象路線が廃止となることについては、反対意見、質疑はなかった。**